

高梁川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（令和2年9月末時点）】

～平成30年7月豪雨災害からの一日も早い復旧・復興と岡山の観光・工業の中心地を守る流域治水対策の推進～

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、高梁川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の平成30年7月洪水と同規模の洪水に対して、堤防からの越水を回避し、流域における浸水被害の軽減を図る。

■河川における対策

対策内容 堤防整備、堤防強化、河道掘削、小田川合流点付替え、笠井堰左岸堰改築 等

■流域における対策

・ 下水道（雨水）施設の整備
・ 用水路の事前水位低下による雨水貯留
・ 水害リスクを考慮したまちづくりの推進
・ 利水ダム等20ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：岡山県、中国電力(株)、土地改良区など） 等
※今後、関係機関と連携し対策検討



■ソフト対策

・ AI技術を活用した避難支援システムの開発
・ LINEを活用した被害状況の共有
・ 関係機関が連携したタイムラインの運用、改善
・ 水位計や河川監視カメラによる河川情報の提供
・ マイ・タイムライン等による防災教育
・ 総合水防演習や講習等の実施による水防活動の強化
・ 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進 等
※今後、関係機関と連携し対策検討

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。